



財政の健全化と 見える化、わかる化を

内田 勇 議員

町長 3年間で約20億の
繰り上げ償還をしている



問 平成22年度決算は、財政の健全化判断となる実質公債費比率は、3ヶ年平均で27%、経常収支比率は85%、将来負担比率は245%と大幅に改善されているが、財政のよく見える化、わかる化の観点から十分な説明を。

答 町の財政状況をもっとわかりやすくということとを、広報の10月号でグラフを使ったり工夫はしているが、一般の住民の皆さんが町財政の仕組みを理解していただく機会は少ないと思うので、町の家計簿でもあるので、

小中学生にもわかるよう努力していきます。

問 繰り上げ償還も平成21年度6億8千万円、22年度も6億5千万円と高額だが、財政健全化の安心ラインは。

答 町政を担当した3年間で約20億の繰り上げ償還をしているが、町職員全員が、補助金や交付金に一生懸命に取り組んだ結果であり、国が財政再建路線に向かえば、真っ先に地方財政にそのしわ寄せがあり安心できない。心配だから何もしないでは不十分です。

問 財産管理室を設置し、資産台帳、土地台帳の管理状況とその成果について。

答 財産管理室を設置した成果として、私債権の管理条例がある。

今年度導入する新電算システムに財産台帳の機能を備えたシステムで、行政財産、普通財産等十分に把握した上で、事務の効率化をはじめ塩漬け資産等の整理、活用をしていくことができます。

問 インターネットを通じてソフト利用やデータ保管サービスを受けるクラウドを利用する自治体が増えているが、運用コストが30%から40%削減されるクラウド導入は。

答 全国的に導入する地域が増えており、県でも一昨年から財団法人島根県市町村振興協会で、事務の共同処理検討会が開催され、導入に向け取り組んでまいります。

問 かつて地方自治体は3割自治と言われ、自主財源3割が健全財政であるが、奥出雲町の平成22年度の自主財源は、36億4千202万円で21%であり、少しでも自主財源を増やすための努力を。

答 自主財源を増やす努力をさらにということですが、基本的には税収の伸びがあることを一番期待をしているが、手数料、使用料、広告収入等、皆さんの御意見、御提案等も参考にし努力します。

問 横田高校の入学定員は4クラス160人ですが、辛うじて120人を越えているが、横田高校の魅力化のために海士町のように、

学習支援センター、公営塾の設置の考えは。

答 生徒数確保については高校として努力されているものと認識しており、高校と地域が一緒になって考えなければならぬが、公営塾については、今のところ設けることは考えていません。

問 奥出雲モデルとして半農半Xの取り組み、地域の農業を支えながら全体的な雇用創出、地域資源を活用した小規模であっても収益の出るビジネス展開等、X部分の助成や支援策を。

答 新規就農者対策からも受け入れ体制も含め認定農業者等の御意見も聞き半農半Xが進む取り組みを考えます。

問 エゴマは健康食品として注目され、育てるのに手間が要らず、イノシシの被害もなく、特産物として産地化を。

答 エゴマを町の特産物として栽培面積を拡大し、認知度を高め、販路の拡大を図る必要があり、さらなる支援策を検討してまいります。